

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	17	学 校 名	静岡県立裾野高等学校	校 長 名	田代 直彦
------	----	-------	------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	社会に適応できる基本的生活習慣の確立に向けた指導を充実する。	裾野高校に入学してよかったと答える生徒100%【全員】	よかったと答えた生徒 81% (85%) () 内昨年度	B	昨年度に比べ、減少しているため、教育活動全体を通して学校の魅力を高める。
		服装が良いと答える生徒90%以上【生徒課他】	良いと答えた生徒 95% (95%)	A	チケット制から切り替えを図ったが、生徒の服装への自覚は向上している。
		挨拶ができると答える生徒90%以上【生徒課他】	できると答えた生徒は 84% (87%)	B	生徒会の挨拶運動等、積極的に活動が始まったため今後に期待したい。
		出席率98.0%以上 遅刻・早退件数前年度比30%減【教務研修課他】	出席率 96.1% (98.1%) 遅刻・早退は減少しなかった。	B	感染症の流行もあり、出席率等の向上については困難な状況にある。家庭との連携を図っていく必要がある。
		基本的生活習慣の指導が適切に行われていると答える生徒85%以上【生徒課他】	適切に行われていると答えた生徒 86% (87%)	A	基本的生活習慣の指導が適切に行われているという自覚と出席率等が結びつくように指導していきたい。
		委員会活動が活発であると答える生徒70%以上【生徒課他】	活発であると答えた生徒50% (68%)	C	委員会の数を学校規模に合わせて統合し、各委員会の活動を活発にしていきたい。
イ	望ましい社会性、規範意識を育成し、生徒の自立性・社会性を伸長し、命を尊び健康で安全な生活を送らせる。	全校集会、学年集会で毎回、生徒に問題行動予防のための講話を実施 問題行動の発生件数前年度比20%減【生徒課他】	式典、集会で毎回注意喚起を行った。 問題行動の件数は前年度より25%減少。	B	SNS等の不適切な使用を細かく指導しているため、指導件数は一定数いる。SNSの使い方講座やセルフチェック等の機会を有効に活用したい。
		PTA・地域との連携による交	下校指導は定期的に学年部		交通安全教室の開催、登下校の指導、日常の呼びかけの教科を

	通安全指導を実施し、交通事故件数を前年度比20%減 外部講師による交通安全教室を年2回実施 いじめ防止・スマホの適正使用に関する研修会（生徒・教員）2回以上実施 教育相談委員会の実施を年間6回以上 健康・安全に関する指導が適切に行われていると答える生徒90%以上 【生徒・保健相談課】	の協力によって実施している。 交通事故については5件と昨年度より増加（3件）。 交通安全の講座を学年で実施。 いじめ防止・スマホの適性使用に関する研修会実施。 健康・安全に関する指導が適切に行われていると答える生徒79%（86%）	C	図る。自転車のヘルメット着用を推進する。 スマホの適性使用に関して、業者による分析結果をもとに、個別指導に活かした。 教育相談委員会やケース会議を適宜開き、必要に応じて外部機関と連携しながら、生徒の抱える問題の解決や改善に努めた。
	避難訓練を年3回実施。避難訓練は大切と答える生徒95%以上 地域防災訓練参加率75%以上 【総務図書課】	コロナ禍で実施できなかった煙脱出訓練等訓練計画の実施を図った。 避難訓練が大切と答える生徒95%（96%）	B	第2回の訓練は感染症流行のため実施ができなかったが、今回の計画を来年度につなげていきたい。 訓練の重要性を理解している生徒は多いが、地域防災訓練の参加率へ結びついていないため、さらに呼びかけ等を強化したい。
	保健便りを年10回は発行 疾病治療60%以上 特に、歯科受診率30%以上 朝食摂取率95%以上【保健相談課】	保健便りを年11回発行 受診率は30%を下回っている。 朝食摂取率81%（85%）	B	保健便りの発行によって、時節による健康管理上の注意喚起を促すことができた。 受診率、朝食摂取率ともに高くないため、連絡ツールを用いた保護者への呼び掛け等も検討する。
	教職員は生徒の話を親身になって聞いてくれると答える生徒90%以上 生徒面談年3回以上 生活アンケート	親身になって聞いてくれると答えた生徒82%（86%） 生徒面談は年3回以上実施。 生活アンケート年3回実施	B	面談、生活アンケートは計画通り実施できた。特にアンケートについては、端末等を用いて効率的に行えるようになったため、それらの結果を素早く指導につなげていきたい。

様式第3号

		トを年3回実施し、問題がある場合は関係教職員が即座に対応 定例いじめ対策委員会を年3回開催【保健相談課他】	定例いじめ対策委員会は十分には開催できなかった。		
		清掃により校内美化が保たれていると答える生徒80%以上【保健相談課】	校内美化が保たれていると答えた生徒61%(70%)	C	トイレのごみ等が多く、使用制限を設けるなどして対応した。さらに利用マナー等について、呼びかけの教化が必要である。
ウ	総合学科の特色を生かして、地域人材の活用を図り、基礎基本の定着や課題解決能力の向上を図る。	新教育課程・学習評価及びICT活用に関する研修を年3回以上実施【教務研修課他】	関連する研修を3回実施。全職員がICT活用について、実践し研修を行った。	A	授業でのICT活用頻度は上がっている。端末の活用の定着をさらに図っていく。また効果的な活用方法について研修を重ねていきたい。
		家庭学習をよくやっていると答える生徒30%以上 基礎力診断テストにより基礎学力の定着度が把握できたと答える生徒80%以上 授業で力がついたという生徒80%以上【教務研修・進路他】	家庭学習をよくやっていると答えた生徒38%(32%) 基礎力診断テストにより基礎学力の定着度が把握できたと答える生徒69%(73%) 授業で力がついたという生徒81%(80%)	A	昨年度に比べ、家庭学習への取組、学力の定着、授業で力がついたという実感、全てにおいて上昇している。 小テストや課題等への取組により、学習習慣が身に付いている生徒は一定数いる。 基礎学力テストの客観的数値でも前回に比べ、成績が上昇した生徒の割合が増えている。
		授業がわかると答える生徒85%以上【教務研修課他】	授業がわかると答えた生徒82%(80%)	A	生徒による授業リサーチ等を活用して、授業改善を行っている。
		家庭学習時間調査を定期的に実施し、平日が40分以上、休日が60分と答える生徒が80%以上	家庭学習時間調査は実施しなかった。本人はよくやっていると自覚があるが、保護者から見ると	C	端末等を利用して、具体的なデータを確実に取って検証する。各教科で課題や小テスト等を調整して、毎日の学習時間の確保を図る。

様式第 3 号

			物足りなさを覚えている。		
		朝読書はよい効果があると答える生徒 70% 以上 生徒の借りる本一人 3 冊以上【総務図書課他】	朝読書は効果があると答えた生徒 63 % (64%) 平均借り出し冊数 2.6 冊 (3.9 冊)	B	朝読書による読書の習慣化は見られる。 図書便り等により読書への関心を深める。
		系列や選択科目が希望進路に就いていると答える生徒 90% 以上 オープンスクールにおける来校者の満足度 97% 以上 地域人材の活用 150 件以上 地域関連事業の実施年 30 件以上【総学広報他】	系列や選択科目が希望進路に就いていると答えた生徒 88% (92%) オープンスクールの満足度 99% (96.5%) 地域人材活用 91 件 (166) 地域関連事業 20 件 (11)	B	系列の選択については、ガイダンスや個別面談等を通じて、ほぼ満足のいく選択ができた。 オープンスクールの来校者は授業や施設見学、学校説明等で本校に対する理解を得られている。
エ	キャリア教育を推進し、地域や産業社会の変化に対応しながら自己実現のできる人材育成を図る。	3 年生の就職者の第一志望合格率 90% 以上 3 年生の進学者の第一志望合格率 90% 以上 3 月末までの進路決定 100% 進路決定に向けた指導が充実していると答えている生徒 90% 以上【進路課他】	就職第一志望合格率 92.6% (90.4%) 進路決定に向けた指導が充実していると答えた生徒 84% (83%)	B	求人数が回復傾向にあり、担任・学年によるきめ細かい指導と密な情報交換により目標を達成することができた。 進学についても、個別指導等の効果が見られた。 また、全職員で 3 年生の進路指導に当たる体制も好結果に結びついている。
		「産業社会と人間」・総合的な学習の時間が自己のためになったと答える生徒 80% 以上【キャリア他】	ためになったと答えた生徒 68% (76%)	C	新旧の教育課程が混在する中で、3 年間を見通した授業計画を進める必要がある。 1 年生については、探究活動の基礎力、スキルを身に付けることができた。

様式第3号

		インターンシップ参加者 2年生(就職希望者) 100% オープンキャンパス参加者 (進学者) 100% 志望学部・志望学科・志望職種が明確になったと答える 2年生 90%以上 自己の進路目標に即して系列を選ぶことができた と答える 1年生が 90%以上【進路課他】	インターンシップ 83% (90%) 不参加者は企業調べを実施 オープンスクール 100 % (88%) 参加 進路志望が明確になった生徒は 2年生 83% (66%) 系列を進路目標に即して選ぶことができた 1年生 82% (90%)	B	様々な進路行事を通して自分の進路について、じっくりと考えていると言える生徒もいる一方で、他の専門学科の生徒に比べて、希望を固めることが遅い傾向もあり、早い段階からの進路意識の向上を図りたい。
		平日、休業中の補習参加者 各学年 60人以上【進路課他】	1年 3名 (0名) 2年 0名 (5名) 3年 63名 (19名)	B	3年生の補習希望者は概ね参加することができた。進路変更等により受講者数は減少した。
オ	学校行事、特別活動、部活動を充実し、生徒に自信と誇りを持たせ、学校の活性化を図る。	生徒会活動は行事の成功につながっていると答える生徒 90%以上 学校行事は充実していると答える生徒 90%以上【生徒課他】	つながっていると答えた生徒 78% (81%) 行事の充実は 85% (90%)	B	生徒数の減少に伴い、委員会の統廃合を検討。執行部は積極的に活動している。
		H R 活動を通してクラスのまとまりがあると答える生徒 90%以上【生徒課他】	まとまりがあると答えた生徒 79% (86%)	B	五龍祭、球技大会等生徒が主体的に考え、運営することができた。
		所属している部活動に満足していると答える生徒 85%以上【生徒課】	満足していると答えた生徒 80% (79%)	B	学校行事等を通じて、さらにクラスのまとまりを強めたい。
カ	保護者や地域住民等への広報活動を充実し、地域貢献活動を活	H P を活用して毎週 1 回以上の情報を発	ホームページ等により学校の様子を知る	B	ホームページの更新については、昨年度に比べて回数が増えたものの、体系的に掲載で

様式第3号

	発に行う。	信し、月のアクセス数を2,500以上とする。HPやFacebookで学校の様子を知ることができると答える保護者80%以上各学年部は学期に3回以上保護者に対して学校の様子がわかる広報紙を発行 報道提供件数50件以上【情報委員会他】	ことができた と答えた保護者90%(77%) 学年部からの 広報発行は概ねできた。 報道提供件数は減少した。		きる情報量に制限があり、来年度予定されている県のシステム変更に期待する。 学校からの情報提供として、「Cラーニング」システムを導入。 生徒・保護者への連絡が密に行えるようになった。 報道提供については、各系列等の取組が事前に十分に周知できなかった。
		地域向け学校広報チラシを月に1回発行【総学広報】	毎月1回発行した。	A	月ごとの発行だけでなく、紙面の充実等の工夫も行われた。
		PTA総会の出席率30%以上 PTA活動の趣旨を十分理解して参加していると答える保護者70%以上【総務研修課】	総会出席率22.8%(20.9%) 理解して参加している57%(66%)	C	会員数の減少に伴って、役員数や仕事の内容の見直しが必要。 また、今後総会の在り方についても検討していく必要がある。
		清掃活動以外の一部活動一ボランティア活動の実施100%【生徒課】	多くの部で実施できた。	B	コロナ禍で活動を自粛していたが、本年度から複数の部活動で再開することができた。
キ	職員及び生徒の国際化を推進し、グローバル人材を育成する。	英語検定合格者数 3級15人以上 準2級10人以上 漢字検定合格者数 2級5人以上、準2級10人以上 数学検定合格者数 準2級5人以上 商業検定合格者数 全商検定（簿記・情報・電卓）1級	英検受検者数21名、合格者数11名(52%) 漢検準2級合格者1名、3級合格者6名 実施せず。 電卓1級2科目2名、1科目18名合格 簿記・原価計算1名合格	B	積極的な呼びかけによって生徒の意識を高めることができた。 またリスニング対策や個別指導により合格率は目標を上回った（英検） 第2回の受験希望者が少なく、実施できなかった。（漢検） 受検への呼び掛けをさらに促したい。（数検） 系列にとらわれず、全ての生徒に受検の機会を知らせて挑戦を促すことができている。今後も継続して積極的に受検するような環境づくりに努める。（商業）

様式第3号

		20人以上【学年部・総合学科・教科】			
ク	教職員は研修に積極的に参加し、組織的な取組により学校力の向上に貢献する。	授業参観後の合評会や生徒による授業評価アンケートを非常勤講師まで含んで100%実施【教務研修課他】	すべての教員が実施。	A	授業評価アンケートの結果を踏まえて、各教員が授業改善に努めている。 授業公開週間後の意見交換等をさらに充実したものにしたい。
		「主体的・対話的で深い学び」及び「ユニバーサルデザイン」を意識してやっている教員の割合が100%以上【教務研修課他】	意識している教員90%	B	研修を通して、新学習指導要領への理解を深め、合わせて評価等についても検討を進めたい。 また、ユニバーサルデザインへの意識の徹底と継続を図りたい。
		必要な生徒に対して個別支援計画を作成UD教育を取り入れる教員100%以上【保健相談課】	実施91%	B	中学校からの情報の引継ぎや生徒に関する情報の共有を全体で行い、個に応じた指導を心掛けている。
		教務・研修課、生徒課の連携により、採用1～3年目の教員のための生徒指導に関する研修を導入する。【教務研修・生徒課】	チーム研修として複数回実施	A	若手教諭の情報交換ならびに各課の先輩教諭からの助言によって、指導力の向上を図った。
		教職員が連携し、カリキュラム・マネジメントを意識した教育活動を実践し、教育効果が上がったと実感する教員80%【管理職】	実感している教員72%(74%)	B	基底にある探究的活動への意識や教科横断型の授業内容等、より多岐に渡るカリキュラム・マネジメントの意識を醸成するために、教科間の情報交換をさらに密に行っていく。

様式第3号

ケ	教職員は業務の効率化を図り、ワークライフバランスに努める。また、次世代育成支援を意識した行動に取り組む。	月曜日の定時退勤励行(午後6時完全退勤) 午後8時退勤励行(午後9時完全退勤) 夏季休暇完全取得 一人当たり時間外勤務月平均30時間以下 一人当たりの年休取得日数平均13日以上 【管理職・事務部】	職員全体の超過勤務時間は減少している。特に午後9時完全退勤については、ほぼ実施できている。	B	超過時間の多い教員については、管理職および産業医による面談を実施。働き方について、見直す機会を作った。業務削減への取組をさらに進めていく。
コ	安心安全な教育環境の整備、充実に努める。	体罰、セクハラ等服務事故0件 施設設備に起因する事故件数0件 監査、検査での指摘、文書指導等の件数0件 学校の施設・設備が整備されていると答えた生徒85%以上 警報時の対応について承知していると答えている生徒や保護者85%以上 【管理職・事務部・保健相談課】	体罰、セクハラ等の服務事故0件 施設・設備が整備されていると答えた生徒66%(74%) 警報時の対応を承知している生徒・保護者76%(86%)	B	体罰、セクハラ等については、グループ研修等を実施して、教員のコンプライアンス意識の向上を図っている。 施設設備については、校舎等の老朽化もあるが、エアコンの設置等環境の改善が進んでいる。 警報時の対応については、ホームページを活用するなどして徹底を図りたい。